

有機溶剤のリスク・粉じんのリスク

工学部生体分子機能工学科
久保田 俊夫

ネット上で、「有機溶剤のリスク」と検索してみてください。たくさんの項目が抽出されます。その中で、Yahoo 知恵袋を見てみると、

有機溶剤中毒に関する質問です。研究室で頻繁に以下の溶剤を使用します。・メタノール・n-ヘキサン・ベンゼン・酢酸エチル・クロロホルム これら有機溶剤を大量に使用しますが、換気はエアコンの換気機能に頼り、特別な吸入防止措置を行わずに実験を行っています。なので、常に研究室はこれら溶剤の混合した臭いがしています。

また、溶剤を扱う際に直接手にかかったり、溶剤を移し変えるときなど気化した溶剤を大量に吸入したりします。そこで質問なのですが、

このような実験を1年間、週4日のペースで続けたとすると健康被害、実際に起こりえる症状を予測できる方がいらっしゃいましたらお聞かせください。

といった質問が…

これに対する回答もかなり恐ろしいものが見受けられます。

大学の研究室はドラフト設備も十分ではない環境でその溶媒をじゃんじゃん使っています。それも週6日、3年間以上です。しかし、有機溶媒での中毒症状になったという話は聞いたことありません。

被害が目に見えないので、危機感がなく、中毒などの災害に遭遇してからでは、遅い。」ということに目が向かないのです。

茨城大学工学部では、法人化以降、幸いなことに大きな災害を出すこともなく、健康被害も出てはいません。でも、それだけでよいのでしょうか？

結果が良好なのは喜ばしいことですが、毎年、学生が入れ替わる大学にとって、良好な状態を維持するためには、どうしたらよいでしょう？

安全衛生のためのハードの拡充

安全衛生教育の強化

の2つに尽きると考えました。

そこで、教育のために役立つと考えて、粉じんインストラクター講習と有機溶剤インストラクター講習を受講しました。今回の発表では、これら講習を大学現場にどう生かすか？一緒に考えてみたいと思います。